

令和7年度 授業改善推進プラン < 理科 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1年	<p>○観察・実験から得られた結果を分析する力に課題が見られる生徒が多い。</p> <p>○学習内容の定着に差がある。発展的な内容に取り組める生徒がいる。一方、基礎的な内容の定着が厳しい生徒もいる。</p>	<p>○結果の整理や考察を個人で考えさせた後、グループ内で共有する時間を設け、協働的な学習を行わせる。その中で、思考力や表現力を伸ばしていく。</p> <p>○授業内にて、定着度に応じて学習を進める機会を設定する。</p>	<p>○協働的な学習を通じ、「事実」と「解釈」を区別した考察ができる生徒の増加が見られた。</p> <p>○難易度別の課題設定により、個々の習熟度に応じた学習内容の定着が図れた。</p> <p>○一方で、学習習慣が未確立な生徒も一定数存在し、基礎事項の定着や科学的な思考力・表現力を養う取組の充実が今後の課題である。</p>
2年	<p>○理科への関心を高めるために日常生活と結びつける指導の工夫が必要である。</p> <p>○生徒が実験の目的を把握し、実験・観察に必要な機器の基本操作や技能を身に付ける指導の充実が必要である。</p>	<p>○実験、観察を通して、自然の事象・現象をできるだけ多く生徒に体験させる機会をつくる。</p> <p>○実験を行う前に実験の原理や操作方法を事前に調べ、実験に必要な道具も一緒に調べる活動を取り入れる。また、初めて取り扱う実験機器は扱い方を動画で視聴する。</p>	<p>○実験・観察の機会を増やすことで理科への興味関心を高める生徒が増えた。それに伴い、提出物とは別に自主的に学習をする生徒の割合が増えた。</p> <p>○実験に関する予習を行うことによって授業時間内に実験を終え、授業の内容をワークシートにまとめられる生徒の割合が増えた。その結果、授業内容の振り返りを個々で行い、個別に抱いた疑問を教科担任に質問する生徒が増え、学習に取り組む姿勢が変化した様子を確認することができた。</p>
3年	<p>○班単位の実験・観察であっても、全生徒が実験の目的を理解し、探究するための実験・観察の基本操作や技能を身に付ける指導の充実が必要である。</p>	<p>○全生徒が積極的に実験・観察に参加できるように、生徒自身が自ら実験方法を企画したり、予め手順を確認したりするなど見通しをもたせるとともに、動画配信等を用いて繰り返し基本操作を振り返ることができるようにする。</p>	<p>○実験の予習に関する取り組みができたことで、時間と気持ちに余裕をもった生徒が増え、実験班の班員同士で協力して実験を行うことができた。また、実験後に生徒に振り返る機会を増やすことで、授業後に質問する生徒が増え、理科の学習に意欲的に取り組む生徒が増えたことが伺えた。</p>